

---

# 君まで、100メートル！

たこき

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

君まで、100メートル！

### 【著者名】

たこや

N4992N

### 【あらすじ】

思いつき小説第一段！

不定期更新！

思いつくままに書きます！

「プロローグ」

「プロローグ」

君と僕の距離。

おおよそ100メートル。

たつた、それだけの距離。

強靭な僕の両の足があれば、縮めることなど造作もないこと。

さあ、いざ行かん！

君のもとへ、いざ行かん！！

残り90メートル。

残り80メートル。

残り70メートル。

よし、順調だ。

このまま君との距離をゼロにしてしまおう。

そして、君に好きだと誓おう。抱きしめよう。

そう思つた刹那、いち悪な春一番が吹いた。

「ああー。」

君のスカートがはためく。

それはもう、いやらしい。

「はうっー！」

僕の股間に、テントが張った。

こんななんじや、君に近づけない。

今日はずいぶんで。

君まで残り70メートル。

君との距離がゼロになる、その日まで、僕は絶対あきらめない！

残り70メートル！

君と僕の距離。

残り70メートル。

今日じゃ、この距離を縮めてゼロにするんだ！

一步一歩大地を踏みしめて、確実に、着実に君へ近づく。

残り60メートル。

よし、順調だ。

このまま君の目の前まで行こう。

そして、「今日もかわいいね」と愛のこもったお世辞を言おう。

僕がそんなことを考へていると、親友のケンジに声をかかれた。

「おはよー！」

「…………」

ケンジよー、邪魔をするな！ 僕は今忙しいんだ！

今は友より慕い人。

ケンジは無視して突進め！

「なんだよ、あこやつへりこ返せよな。おこ、ヒーリングおまえ、鼻毛出でるわ」

鼻毛？ 出しますか？ あらまあ……

こんな感じや彼女に近づけない。

今日も一回めで。

また明日、身だしなみを整えてから、がんばりや。

彼女との距離がゼロになるまでの日まで、僕は絶対あきらめない！

残り60メートル！

君と僕の距離。

残り60メートル。

今田は鼻毛をキレイに整えてきた。

顔の油も取つてきた。

もう大丈夫。

今田こそ、君のもとへ！

ズンズン進め！

ドンドン進め！！！

学問のすゝめ！！！

君との距離、残り50メートル。

いいぞ、いいぞ、このまま君との距離をゼロにしよう！

僕がそう思ったとき、近くで話をする女子の声が聞こえた。

「妙子はどんな男が好き？」

「うーん、やっぱり筋肉のある人かな」

「あー！ わかる！ 私、筋肉マツチヨな人にお姫様抱っこされてみたい！」

「やうやうー あと、腹筋もいいよね。6個に割れた腹筋とか……じゅる、マジ涎でるわ！」

「もう、妙子の変態！ でも、やっぱり筋肉は重要よね。『デブとかマジ勘弁だわ』

「確かに。『デブは瘦せてから来な！』なんてね。あはははは！」

僕はふと、自分の腹を見た。

僕の腹は見事に割れていた。

横に、3つ。

……いわゆる、三段腹だ。

……いわゆる、デブだ。

……こんなんじや、彼女に近づけない。

痩せてから、また、がんばりつ。

今日はここまで。

僕は絶対あきらめない！

君との距離がゼロになるその日まで。

ただ、今日はもう心が折れた。傷ついた。

僕の心が立ち直るまで、僕の体に筋肉がつくまで、どうか待っていて欲しい。

他の男に気を許さないで欲しい。

僕にはそれを言ひ勇気もなければ、それを強要する権利もないのだけれど、それを願わずにはいられなかった。

神様、よろしく！

とつあえず、瘦せてきます。

それまで、しばしあ待ちを！

残り50メートル！

君と僕の距離。

残り50メートル。

季節は夏後半もいいところ。

残暑がきびしい、心はさびしい。

なぜかつて？

君が僕の傍にいないからさ。

でも、もう大丈夫。

半年もかかってしまったけれど、今の僕は非の打ち所のないマッチヨ人間。

体重は20キロ減。

体脂肪率は10%をきつた。

これでもう、僕の進撃を止める要素はなくなつた。

唯一気がかりだった君の交友関係も、今のところ大丈夫そうだ。

”君に特定の異性の影はなし”

これは僕の親友パート2であり、学内随一の情報屋”タケト”からの情報だから間違いないだろ？

さて、回想はこれくらいにして、歩を進めますか。

今田こっそは、今田こっそは君との距離をゼロにしよう。

そして、この立派な上腕二頭筋で君の華奢な体を抱きしめよ？！

一歩、二歩、三歩……

順調に歩を進める。

残り40メートル。

いいぞ、いいぞ！ 今田の僕は止まらんぞ！！

そう思つた刹那、親友のタケトに声をかけられた。

「大樹おはよ！」

「…………」

タケト邪魔だ！

「あいさつなしかい！ まあ、いいけどさ。ところでお前、ほんとに変わつたよな。前はオーテぶちゃんだったのに、今はまるでボディーヴィルダーみたいだぞ」

「…………」

僕はタケトとの会話をはやく切り上げて、君のもとへ向かいたかつた。

「でも、汗つかきなのはあいかわらずだな。お前、汗でYシャツびしょびしょだぞ。着替え持つてきてるか?」

「…………え?」

僕は自分の体を改めて見てみた。

…………完全なシースルー。

「こんなんじゃ、君に近づけない。

今日はここまで、また明日。

ああ、こんなことで進撃を止める!としながりつとせ。

心も筋肉みたいに鍛えられたらいいのになあ。

でも、僕は絶対あきらめない!

君との距離がゼロになるその日まで…。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4992z/>

---

君まで、100メートル！

2011年12月20日22時46分発行